

常滑の艇庫移転についての協同態勢づくりへの御協力依頼

様

拝啓 仲春四月、時下ますますご清祥の段、お喜び申し上げます。

さて、私は、名古屋大学ヨット部長を務める林と申します。鬼崎ヨットハーバーの移転について、常滑市の移転要求に対して、各大学、企業等が対応されていると聞き及んでおります。この移転について、以下のような重大な問題があると考え、皆様にご相談いたしたく、お手紙を差し上げる次第でございます。

- 1) 常滑市の提示する条件では、現在艇庫を保有している各大学および企業等が、独自の資金で建て替えを強いられることになり、この資金のめどの立たないチームは、艇庫を放棄せざるを得ない状況に陥っている。このような理不尽な条件は、到底受け入れがたい。
- 2) 常滑付近の練習海域では、今日でも名古屋港への出入港船舶の極めて激しい南北方向のトラフィックがあると同時に、海苔網を損傷した場合には最低200万円の補償金を支払わねばならない。これに加えて、来年の中部国際空港の建設開始に伴い多くの工事用土運船が行き来すること、また、開港に伴い対岸の三重県各地等からの空港海上アクセス高速艇（時速100km近くで運行予定）が名古屋港航路を横切る形で東西トラフィックが生じる。
- 3) 一方、蒲郡地区は、アメリカズカップのベースキャンプの立地や、日本のトップレベルの実業団チームが常時練習をしている環境は、全国的に見ても得難いものと言える。しかし、東海地方は、実業団は全国のトップクラスでありながら、大学は平均して全国でも下位地区となっている。愛知県下の大学のほとんどがその主練習場が常滑海域としているためか、強い実業団の影響を受けるチャンスに乏しい。
- 4) 数年前の愛知国体のために整備された蒲郡の海陽ヨットハーバーは、広大なヨットの野積場を有する立派な施設であるが、合宿施設は有していないので、現在、鬼崎で各大学、企業等のとっている練習形態を海陽で継続するには、これを確保する必要がある。これに対して、野積場は、賃料が高い等の理由で、ほとんど利用されていない状況にあるらしく、この一部を宿泊施設と艇庫に使う可能性があると思われる。
- 5) 愛知県にとって、現在蒲郡で活躍している実業団に加えて、鬼崎に立地する大学、企業等も集結させて、蒲郡を文字通り日本におけるヨットのメッカとすることは、地域振興上も大きな意味があると思われる。

私の属する名古屋大学土木系教室の卒業生で愛知県土木部に勤め、かつて、海陽ヨットハーバー整備を担当した方に、以上のような考えを話したところ、容易とは言えないまでも、検討の価値はあるとの感触を得ました。常滑市のこの件を担当する土木課は、もちろん、県土木部と密接な関係にあり、根拠が明確になり、議会等への説明も可能となれば、県に調整していただく事も考えられます。

また、名古屋工業大学、愛知学院大学、名古屋学院大学、南山大学、愛知工業大学、名城大学および名古屋大学の、鬼崎に合宿所を持つ7大学のヨット部の学生代表の諸君からもヒヤリングを致したところ、彼らも蒲郡への移転を熱望していること、また、合宿所が廃止になることを深く憂慮している諸君も居ることが判りました。

各大学、各企業等が常滑市と既に数回の交渉を持たれ、既に移転要請地への建設計画を作成し、予算化を図られているところもあると思われます。しかし、今回の移転は、長い将来の練習環境を大きく変えてしまう重大な意思決定をすることでもあります。また、常滑市との交渉は、理不尽とは思いつながら、市から要請された場所へ移る以外にどうしようもないとの判断の下に進められてきたところもあるのではないかと推察いたします。

そこで、これまで別々に計画を進めてきた各組織が結束して、この件を緊急に再検討すべきであると考え、誠に急なご依頼で失礼とは存じますが、手遅れにならないよう本日5月1日、15時から名古屋大学にて緊急会合を持ちたく、ご出席依頼のお手紙を差し上げる次第でございます。折り返しFAXまたは、emailにてご連絡下されば誠に有り難く存じます。御欠席の場合には、会合での議事報告をさせていただきます。また、次回打ち合わせを5月15日（金）午後3時から5時に行いたいと思いますので、併せて御都合を返信用紙に御記入の上、返信下されば幸いです。

なお、この依頼状は、下記の大学、企業等のヨット部代表者および所轄の事務局のご担当の方々に発送させていただきましたので、申し添えます。

敬具

平成10年5月1日

名古屋大学ヨット部長 林 良嗣

（名古屋大学大学院教授、工学研究科地圏環境工学専攻、土木工学、国土地域計画）

Tel：052-789-2772 Fax：052-789-3837 E-mail：yhayashi@genv.nagoya-u.ac.jp

記

大学：名古屋工業大学、愛知学院大学、名古屋学院大学、南山大学、愛知工業大学、名城大学、名古屋大学

企業：O.Y.C、INAX、東海銀行、豊田自動織機、（財）名古屋 YMCA、三菱重工（株）、レーザー知多フリース

Fax 返信票

To： 名古屋大学大学院工学研究科
林 良嗣（Fax：052-789-3837）

Form： 所属_____.

氏名_____.

Fax 番号_____

都合の良い時間帯に○印をおつけ下さい。

5月1日（金） （ ） 10～12 時、（ ） 13～15 時、
 （ ） 15～17 時、（ ） 17～19 時

5月2日（土） （ ） 10～12 時、（ ） 13～15 時、
 （ ） 15～17 時、（ ） 17～19 時

＊5月1日（金）15～17 時を第一案とさせていただきますが、皆様の御都合により調整致します。

＊全員の御都合を合わせることは不可能とも思われますので、不都合の場合は代理等をお出し下されば幸いに存します。

＊場所は、名古屋大学工学研究科地圏環境工学専攻会議室です。
（工学部9号館3F306号室）